

平成15年度美術館ボランティア

静岡県立美術館ボランティアは、開館を控えた前年の1985年から募集と研修を開始し、86年4月の開館と同時に、350人の体制でその活動を始動させた。以来、日本の公立美術館としては最大規模のボランティアとして、美術館と観覧者との架け橋となるべく大きな役割を果たし続けている。

今年度の活動には、前年度10月に新たに応募したボランティアが活動に参加した。

活動人数の推移

昭和61年度	-	350名
昭和62年度	-	307名
昭和63年度	-	260名
平成元年度	-	317名 (新規参加者90名)
平成2年度	-	263名
平成3年度	-	240名
平成4年度	-	223名
平成5年度	-	347名 (新規参加者140名)
平成6年度	-	331名
平成7年度	-	299名
平成8年度	-	282名
平成9年度	-	273名
平成10年度	-	354名 (新規参加者94名)
平成11年度	-	316名
平成12年度	-	297名
平成13年度	-	265名
平成14年度	-	331名 (10月より新規参加者95名)

基本の活動と内容・役割

全体を24班に分け、4週に1回を基本活動日として活動している。

内容は、来館者と直接接する「来館者対応」と、縁の下の力持ちとして来館者からは見えないところで美術館の業務を様々な面から助ける「内部の活動」の2種がある。この2つが基本活動となり、更に希望する有志によるグループ活動がある。また、団体での観覧者に対して美術館の概容などをごく簡単に紹介する「団体概説」が来館者対応として加わった。

この他に、収蔵品展や企画展の鑑賞研修も大切な活動である。収蔵品展はいつでも鑑賞することができ、美術館の所蔵作品について造詣を深めることに各人が努めている。企画展についても積極的に鑑賞研修を進めるため、活動日以外にも1企画展について1回の鑑賞を認めている。各展覧会ではボランティアのみを対象とした「ボランティア・プレビュー」も開催され、

担当学芸員による解説と鑑賞が行われるので、いち早く展覧会の内容把握に努め、その魅力を広く館外へ広めるといった対外的な活動に役立っている。

【基本活動】班編制により月1回の活動日に全てのボランティアが行う活動。

来館者対応：

- (1) インフォメーションカウンター・音声ガイドの案内
- (2) 図書閲覧室の運営・公開端末利用の受付
- (3) 視覚に障害のある方への「タッチ・ツアー」のガイドやその補助、お体に障害のある方への補助など
- (4) 団体観覧者に対するオリエンテーションや資料配布など

内部の活動：

- (1) 他館の展覧会ポスターの館内での掲示、管理
- (2) 新聞記事の切り抜きや整理など、美術館活動の基本資料の整備
- (3) 各種講座や研修の受講及び自己研修
- (4) 館外での当館開催展や諸活動の広報
- (5) その他、美術館の要請に応じて美術館活動を助けること

【グループ活動】有志による活動。美術館の要望などにより呼びかけて行われています。

- (1) ギャラリー・トーク (展示室での来館者への作品解説・毎月第2第4土曜日他)
- (2) グループD (新聞・文献資料の詳細な分類整理)
- (3) 桐の会 (蔵書資料などのパソコン入力チーム)

* グループ活動のみの参加は不可。必ず基本活動に参加した上で、希望の方がグループ活動を行う。

* この他、ボランティア研修旅行の企画実行を担当する【研修旅行委員】(指定活動曜日のボランティアから選出)、「タッチ・ツアー (彫刻を触って鑑賞するプログラム)」実施の中心となる【タッチ・ツアー・ガイド】(有志)、実技室での教育普及イベントを補助する【実技室ボランティア】(有志)があり、ボランティア相互の連絡調整につとめる【班長会】(各班長・副班長で構成)とともに、ボランティア活動の充実に努めている。

年間活動記録

- 4月1日 328名で活動開始
4月27日 ボランティア研修旅行委員会第1回 (以後、

- 旅行当日までに全7回開催)
- 8月3日 ボランティア班長会
- 11月9日 ボランティア研修旅行(メナード美術館・尾西市三岸節子記念美術館・稲沢市荻須記念美術館)76名参加、随行:泰井良(学芸員)
- 11月14日 ボランティア研修旅行(メナード美術館・尾西市三岸節子記念美術館・稲沢市荻須記念美術館)76名参加、随行:新田建史(学芸員)
- 12月5日 研修旅行委員会反省会
- 3月22日 下半期ボランティア全体会
- ・平成15年度のまとめと報告
 - ・連絡事項
 - ・班別ミーティング
 - ・講演「セザンヌの芸術」
講師:吉岡健二郎(館長)

る
・年に一度、活動内容をアンケートの形で報告する

広報サポーター

平成13年度から発足した広報サポーターは、「美術館と展覧会の広報」の分野を担う、美術館に通って来ないボランティア活動として定着を見せており、平成15年度末には170名の登録人数となっている。

広報サポーターとは、美術館の展覧会や活動にご理解いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター・チラシおよび当館のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。

広報サポーターは、当館ボランティア向けにおこなっている展覧会内覧会に参加できることとしている。広報活動のため、いち早く展覧会内容を知っていただくためである。また、実際の活動状況を把握するため、年に一度広報サポーターには「活動アンケート」を義務付けている。

- 1)「広報サポーター」に登録すると
 - ・展覧会ポスターやチラシ、イベント情報が随時送られてくる
 - ・展覧会のボランティア・プレビューに参加できる
 - ・広報サポーター証の発行を受ける
- 2)「広報サポーター」の義務
 - ・展覧会やイベントの情報を地域や職場に広める
 - ・効果的なポスター掲示場所等の情報を美術館に寄せ